

令和元年度日進市事務事業の外部評価 議事録

日 時 令和元年11月11日(月) 午後2時から午後4時10分まで

場 所 日進市役所本庁舎4階第2・3会議室

評 価 員 齊藤由里恵(コーディネーター兼任)、金澤敦史、内藤正勝、志水佳三、中條元男、恒川孝司、三村剛、岩佐智生、上田信子

欠 席 者 なし

事 務 局 石川達也(企画部長)、辻武(企画部調整監)、水野隆史(企画部次長兼企画政策課長)、安彦直美(企画政策課課長補佐)、山浦勝義(企画政策課企画経営係長)、中根友樹(企画政策課企画経営係主事)

説明の為に出席した者 加藤慎司(環境課長)、石川博之(環境課主幹)、山田和典(環境課課長補佐)、近藤香織(企画部次長兼秘書広報課長)、所俊邦(秘書広報課課長補佐)、白木誠(秘書広報課広報広聴係長)

傍聴の可否 可

傍聴の有無 有(6名)

次 第 1 開会
2 あいさつ
3 事務事業の外部評価(対象事業・テーマ及び所管課)
(1) 事務事業型
資源ごみ回収推進事業【環境課】
(2) テーマ型
多様な媒体・方法による広報活動の推進
～映像番組制作事業からみる課題～ 【秘書広報課】

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
	3 事務事業の外部評価
事 務 局	(外部評価の進め方等について説明)
	事務事業型 資源ごみ回収推進事業【環境課】
コーディネーター	それでは、事務事業型 資源ごみ回収推進事業の外部評価を開始します。環境課から事業の説明をお願いします。
環 境 課	(説明)
コーディネーター	評価員の方からご意見、ご質問はありますか。
評 価 員	資料1の19ページ上段に他市との比較という部分があります。近隣市のプラスチック製容器包装収集量と費用の表ですが、日進市とみよし市の部分について、やり方が違うので様々な数字が違うのはわかっていますが、見てわかる通り収集量と処理費用にかなり差があります。また、回収の回数も違います。みよし市のこのよ

発 言 者	内 容
	うな取り組み方について、良い点や悪い点がそれぞれ存在すると思います。その良し悪しについて参考にできれば日進市にとっては良いなと思うのですが、わかる範囲で結構ですので教えていただきたいです。
環 境 課	<p>みよし市では、みよし市内に2箇所あるリサイクルステーションでのみ回収を行っております。平成30年度の実績で言いますと、日進市が916トンの回収があったのに対し、みよし市では102トンの回収であり、単純に比較するとみよし市は日進市の11.1%の回収であったと言えます。</p> <p>みよし市がやっていることにつきまして、みよし市自体が評価をしております。その最新のものが平成30年度行政評価というものでございまして、そちらの中では現状維持と書いております。また、毎年みよし市で実施されている市民アンケートでは、本事業が含まれております環境と人にやさしいまちということで、重要度、満足度共に高い事業として、今後も現状のまま保つ事項として分類されておりますことから、市民から一定の評価をされている事業と伺っております。</p>
評 価 員	<p>ということは、みよし市では、市が回収しているもの以外の部分は、市民の方が別でどこかへ持っていかれるとか、そのような対応をしているということでしょうか。</p>
環 境 課	<p>プラスチックの回収は容器包装リサイクル法によって定められたルート以外は通常ありません。例外的に碧南市の方では別の手法をとっておりますが、法律の施行前から行っているということで継続しています。ですので、リサイクルされないそのようなごみというのは、すべて燃えるごみの方に出ているだろうと捉えております。</p>
評 価 員	<p>今回、この事務事業評価シートやパワーポイントの4ページなどに資源化を進めていく必要があるというようなことが書いてあったり、6ページや16、18ページについては取り巻く環境を考えてやっていかなければならないとあったりと、やはり環境に配慮していく必要はあるだろうとしている一方で、結果的にコストが重要であると書かれている部分もあります。そのバランスをどうしていくか、ということが今回の論点であるとは思いますが、事業だけで環境とコストのすべてがうまくいくと私には思えないので、市民にももう少し協力してもらうことが必要なのかなと思います。やはり、みんなでまちをきれいにしようとしている自治体、具体的な名前は今出てきませんが、市民が各自でごみを持ち寄って分別して、という取組などを見たことがありますので、市民にも頑張ってもらった上で、努力したおかげでこのような良いことがあると市が示すともっと効果的になると思います。</p> <p>冒頭で言ったとおり、方向性がぼやけているように感じたので、しっかり示した上で事業や活動を進めた方が良いと思います。</p>
環 境 課	<p>おっしゃるとおり、理想と現実的なものがある中で、どのような施策を展開していくか、そのバランスはどうするか、ということはございます。これはごみや資源だけでなく、市政全体に言えることだと思いますので、そういったところで市民の</p>

発 言 者	内 容
	方に負担をかけるというのも、ひとつの方法としてはあるのかなと思います。次期のごみ処理基本計画の中でいろいろな意見を参考に、より良いごみ行政になることを目指していきたいと思っております。
評 価 員	12ページのパワーポイント、ゴミ回収のイメージの部分で、スーパーマーケット等で回収しているようなペットボトルは、家庭なのか事業者なのかどちらでしょうか。
環 境 課	例えば、全部がそうであるというわけではありませんが市がお願いして置いている場所もありますし、事業所が独自で設置しているところもあります。前者については家庭、後者については事業者という分類であります。
評 価 員	やはり市単独での取組では限界がありますので、商品を販売するスーパーマーケットなどの事業者の協力は必要だと思います。私のよく利用するスーパーマーケットがあるのですが、そこではペットボトルやダンボールを回収し、ポイントを付与する取組を行っております。具体的に言いますと、ペットボトル5本で1ポイントもらえるというものであり、そのスーパーマーケットの利用者は積極的にこの制度を利用しているように思います。このような取組は非常に面白いと思いますので、現在は事業者が色々とアイデアを出してやっているところですから、市も事業者と連携して、市としてのリサイクルの成果ということでPRしていくような取組をしていければいいのではないかと思います。
環 境 課	以前、日進市でも空き缶の回収を始めた際に、空き缶をいれるとポイント券が出てくるという取組をやっておりました。今後新しい制度を導入する際には、そのような手法も有効であると思います。また、事業者の方も製造・販売する責任があるかと思います。今の容器リサイクル法は元々そういった業者の事業負担、あるいは市の負担というものが定められた中でできた制度でございますので、その制度も鑑みながら事業者、市、市民の負担についても今後検討できればと思います。
評 価 員	まず、事務事業評価シートの中の事業費部分についてお伺いしたいと思います。事業費は多少右肩上がりの傾向ですが、30年度の決算額では多少下がって令和元年度の予算額ではまた上がって、という流れでございます。その中で、特定財源の手数料についてですが、これは主にごみの袋、日進市ですと生ごみやプラスチックの袋が売っていたりすると思いますが、その金額という認識でよろしいでしょうか。そのあたりわからないので教えていただければよろしいでしょうか。
環 境 課	こちらの金額につきましては、この事業が資源ゴミ回収推進事業でございますので、容器包装プラスチックのごみ袋の手数料のみとなっておりますので、燃えるごみ等その他のごみ袋の金額は含まれておりません。
評 価 員	わかりました。あくまでこれはプラスチックごみのリサイクル等を念頭に置いた費用を抽出した事業シートであるということでしょうか。
環 境 課	そのとおりでございます。
評 価 員	少し観点が違いますが、その中で現在びんや缶などの資源ごみについて、日進市

発 言 者	内 容
	では袋に入れず箱などに入れて回収をされているということでしょうか。袋には入れる必要がないので、その点について市民の方の負担はないという認識でよろしいでしょうか。
環 境 課	そのとおりでございます。
評 価 員	将来、びんや缶についても、袋に入れて回収することになるなど、収入源になるという観点はお持ちでしょうか。
環 境 課	現在そのような観点はございません。
評 価 員	わかりました。それと、先ほどから多く意見が出ているように、市民の皆様一人ひとりの意識がないとプラスチックを始めとした各種ごみはなかなか減っていかないということになると思います。現在リサイクルを中心にこの事務事業評価シートに記載があるところではございますが、リデュースやリユースのほかに元からプラスチックごみを出さない啓蒙活動であるとか、なかなかプラスチックごみはほかのものに転化しにくいところではありますが、うまく再利用していくような市民の方への説明やお願いという部分は現状どうなっているのでしょうか。
環 境 課	いわゆる5Rなどございますけれども、そういったものについては広報やHP、エコドームを利用させていただくことなどで市民それぞれに意識を持っていただくようにしております。また、最近はクールチョイス、賢い選択に関する取組なども行っておりますので、そのような環境課が実施する事業の中で市民の方に問いかける、あるいは事業者にもプラスチックごみにならないものを選択していただく、過剰包装をやめていただくなどお願いをしているところです。特徴的な施策として日進市が行っている、というほどのものはないというのが現状でございます。
評 価 員	特にプラスチックごみの中の食べ残しの問題については、各家庭ですすいでごみを出すだけでおいの問題が非常にクリアになるといったことがあろうかと思えます。また日本などリサイクル先進国のやり方というのは、先ほどのご説明の通りごみを燃やすことで何らかの代替燃料としていることが多く、それも含めてリサイクルとしているためリサイクル率が高く見えているだけであって、本当の意味でのリサイクルをしているというわけではありません。燃やすのであっても、効率を上げるために、ちゃんとすすいでから捨ててくださいというお願いを積極的にしていくことで、プラスチックごみも比較的有効な再利用につながっていくのではないかと思います。そのあたりの取組をお願いしたいと思います。
環 境 課	プラスチックの処理費の中で、中間処理の委託料がかかるという説明をいたしました。これはプラスチックの品質を上げるというのが主な目的であります。容器包装リサイクル協会というところにプラスチックごみを出すわけですが、日進市が出したものの品質が悪いと評価が下がってしまい、余剰金が出た際に返ってくる金額が少なくなるという制度があるため、そのような部分にも影響してくるということがあります。そのため、委員がおっしゃられるようにリサイクルの弊害になる部分がございます。可能な限り台所ですすいでいただくのが良いということではあり

発 言 者	内 容
	<p>ますが、水をたくさん使うという弊害もありますし、単独浄化槽を使っている家庭では、ごみをきれいにすることで逆に排水が汚れてしまうということもありますので、そのバランスが難しいという面もございます。</p>
評 価 員	<p>23ページ、今後の取組案②にあります、紙類の回収を始めることでリサイクル率が2.5%増加するという部分について、その根拠がわからないので教えていただきたいです。個人的には、可燃ごみに入れて捨てる紙類がティッシュペーパーくらいのもので、子ども会などが行っている資源回収にほとんどのものを出しています。</p> <p>また、資源回収では家の前まで回収が来てくださいますが、収集となると集積所までごみを出しに行く必要があり、高齢者にとっては負担になるという欠点がございます。子ども会、PTAは回収した資源が収入源となっている部分もあるので、そのあたりがどうなるのか知りたいのでお願いします。</p>
環 境 課	<p>まず、根拠としては、組成調査というものをやっていると説明させていただきましたが、その調査結果から可燃ごみの中に紙類が5.1%含まれるということがわかっております。ですので、こういったものを回収しますと、リサイクル率の上昇につながるということになります。また、エコドームの利用や団体回収で雑古紙というものを資源として出している方につきましては、委員のおっしゃるとおり可燃ごみの数字としては出てこないです。ですので、そのようにしている場合は基本的に可燃ごみの中に紙ごみは含まれておりません。ですが、組成調査の結果としては、ある一定の量のリサイクルできるごみが含まれているということですので、そのようなものを計画収集の中で回収できるシステムを作ることでごみも減りますし、資源化も進むと考えております。</p> <p>資源を出す方法は、エコドームの利用や団体回収の利用など様々ありますので、そちらももちろんご利用いただきたいとは思っておりますが、現在雑古紙というのは回収を行っていない団体もあります。ですので、エコドームも利用していない方であればごみとして出てしまいます。市として、何もかも集めるというのは財政的に難しいですが、効率的に資源を回収してごみを減量し資源化を進めていく、ということを考えております。</p>
評 価 員	<p>日進市のホームページでごみの分別を見ていますが、その中で資源ごみという言葉は一切出てきておりません。ここでは事業として資源ごみ回収推進という名前になっておりますが、ごみ収集の分別種類の中に資源ごみというのは確かなかったと思います。市民からすると、このごみをどうすればいいのかというのが分からないのではないかと思います。自分でも、ペットボトルを捨てる時、ふたと容器包装と本体をそれぞれどうすればいいのか、はっきりとは分からないと思いました。そのあたりについて、市民への周知をもっとする必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>小学生など小さいころに教えられたことは意外と覚えているものですので、プラスチックごみの海洋流出ゼロを目指すと言われる2050年まで、長いようで、もう</p>

発 言 者	内 容
	<p>すぐのことです。小学生のころから細やかな教育を行うことで市民の方にもっと興味を持ってもらえるのではないかと思いますので、それに向けた取組を考える必要があると思います。</p> <p>あと一点、8ページの事務事業評価シートにある評価の部分で、県内のリサイクル率は上位を保っているとあります。確かに県内では上位ですが、他県を見てみると70%から80%のリサイクル率のところもあります。実際にそういうところがどのような取組をしているのか、またどのくらい費用がかかっているのか、優れた部分を真似てみるなどやられたらどうかと思います。意見として聞いていただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
環 境 課	<p>分別が分からないということにつきましては、毎年3月にごみと資源の出し方ガイドブックというものを発行しており、各家庭へ広報とともにお配りしております。そのガイドブックの最後にごみの辞典のようなものがありまして、何をどのように出すかが分かるものもつけさせていただいております。これですべてをカバーできているとは思っておりませんので、参考にさせていただきながら分からない場合はこちらへご確認いただければと思います。</p> <p>また、お子様から教育をというご指摘がありましたが、学校に出向いての周知など若干ではあります。PRをしております。子どもが期待しておるのは、子どもからの習慣づけということに加えて、家庭内で子どもから家族へ情報が広がり、そこから会社など大きく広がっていくことで、社会全体へごみの減量や資源化が広まっていくことです。</p> <p>最後に、他県のリサイクル率に関するお話をいただきました。例えば、鹿児島県の大隅半島にあります大崎町という町は、12年連続でリサイクル率1位をとっている自治体でございます。面積は日進市の3倍程度ありますが、人口は1万3千人程度でございます。この自治体は、町内にゴミの焼却炉がないため、極力ゴミを出さないための取組を行っており、具体的に申し上げますと町内会で27分別のゴミ収集を行っているとのこと。収集運搬費は4,500万円程度、中間処理費は2,600万円程度でありました。大崎町を含め全国上位3自治体はいずれも人口が少ない自治体であり、同じような取組をしております。規模的に近い自治体はございませんでしたが、参考にできる部分を研究して今後の施策に役立てていきたいと考えております。</p>
評 価 員	<p>あと一点、収集は週に1回とおっしゃっていましたが、それを2週に1回とすることで起こる大きな問題はあるのでしょうか。隔週にすることで費用は大きく下がるとありますが、それに伴ってプラスチックがあふれてしまうなどということがあるのでしょうか。</p>
環 境 課	<p>現在と同じ量が出るという想定ですと、収集場所においては少しあふれる可能性がございます。また、出る量が同じですと収集車も同じだけ走る必要がございますので、バランスが難しいという部分はあるかと思います。ただ、個人的な話にはな</p>

発 言 者	内 容
	りますが、プラスチックごみを毎週出すということはほぼございませんので、その点ではさほど大きな問題ではないかと思えます。
評 価 員	16ページの中で、中国の輸入禁止により環境省から各自治体へ焼却処分を要請とあります。そのようにすれば、21ページにある今後の取組①-3の通り、7,500万円費用が削減されると考えてよろしいですか。
環 境 課	おっしゃるとおりです。ただし、その分が燃えるごみで処理されることになれば、その処理費が上乘せされるということになります。中間処理費用が燃えるごみにはかからないので、それほど金額的に大きなものにはなりません。
評 価 員	そうしますと、22ページにあるとおり、450万円負担金が増え、リサイクル率が2.2%減少するというところでよろしいですね。
環 境 課	その通りでございます。
評 価 員	その逆の問題として、16ページにあるとおり海洋汚染の問題があるということですね。われわれが口にする魚などに影響があるとすれば非常に大きな問題だと思います。それに対しての案として、取組案①-1や①-2があるわけですね。その上で、コストを削減するためには回収の間隔を減らす、という方法があるということだと思います。そのどちらをとるかという問題であるかと思えます。
環 境 課	プラスチックの収集をやめたからといって海洋への流出に直結するわけではございません。出たプラスチックはすべて回収するというのであれば、リサイクルでも焼却でもすべて処理されることになりますので、海洋流出はしないということになります。全体的なバランスの中で、収集の間隔を減らすことで削減できた金額をほかの事業に充てることのできるのではないかと考えております。
評 価 員	<p>家庭で生活していると、不要なものは基本にごみとして出すことになります。自分は基本的にいらぬものはまずリサイクルできるかどうかを考えております。日進市が作成したパンフレットを元に、資源化できるものは何か、どこへ持っていけばよいか、ということは心がけています。生活していればごみは出るものですので、それをどのように処分するか、資源ごみとしてリサイクルに出すというのは、当たり前のことであるように思います。それは、市の方から広報を数多くしている賜物であると思っております。</p> <p>また、私はエコドームなどよく利用しますし、先ほど他の委員がおっしゃったようにポイント制度のようなものがあれば、消費者として自分が有利になるように活用するのではないかと思います。</p> <p>もうひとつ、会議用のお茶などをペットボトルで出さないで代替品を利用するなど、そもそもごみを出さないような啓蒙は行う必要があるのではないかと思います。市のスタンスとしては、そのようであってほしいと思います。</p> <p>また、プラスチックごみの回収を隔週にするという案がありましたが、私の家庭は2人暮らしで月に1回ほどしかごみがたまりませんし、可燃ごみのように集積所が毎週ごみでいっぱいということはないように感じます。このあたりを細かく調査</p>

発 言 者	内 容
	<p>した上で問題がないということであれば、事業を進めていただいてもかまわないと思います。</p> <p>紙に関しては、車に乗れない方でエコドームに行けない方など集積所での回収で助かる方もいらっしゃると思いますので、雨への対策など細かい部分を検討しながら進めていただければいいのかなと思いました。</p>
環 境 課	<p>紙ごみに関しては、現状回収するかどうかについてという部分から検討している最中ですが、現在の集積所で可能であると考えております。また、業者へ確認中ではありますが、紙は再利用する際一度溶かすため、多少濡れても問題はないと聞いております。市の立場からすると、買い取っていただくか処分していただくかの違いはありますが、重量によって収集の金額が決まるため、雨に濡れた分の重量は差し引いたもので通常は回収しているということを確認しているところであります。そのため、現在の集積所を雨に濡れないものに改修しなければならない、という必要はないものと考えております。</p>
評 価 員	<p>今後の取組に関連しまして、質問というより意見という形にはなりますが、いくつか挙げさせていただきます。まず、事務事業評価シートに記述されています目的と内容の中で、ごみの減量化のみならず資源化にも繋がることをPRし、とあったり、11ページ下段の施策体系の中でこの事業の趣旨が説明されたり、12ページ上段の目的の部分で資源化を目指す旨があったりする中で、この事業が行うべきミッションが分かるところですが、それに対して、今後の取組の部分を見ると、解決に向けてどのように動くのかというところで、具体的であったり、逆にわかりづらい部分があるように思います。行政が行う事業ですので、短期的なものだけでなく中長期的なもの、先ほどもいくつか挙げたとおり子どもたちへの啓蒙など、そういったものも踏まえて今後の取組案というものを精査されるとよいのではないかと思います。</p> <p>最後に、質問としまして、行政ならではのこういった課題に対するより中長期的な取組として現在検討されていることがありましたら、教えていただければと思います。</p>
環 境 課	<p>中長期的な取組の中で、昨今問題となっていることとして生ごみ関連が挙げられます。食品ロスというものについても、法律で決められていることもございます。また、組成調査の中で、生ごみというのはその総重量の中で水分が占める割合が非常に大きいということがございます。水分を含んでいることで、処理場で燃えづらいという問題もございます。ですので、生ごみや食品ロス等をどうやって減らしていくかということになります。法律が施行されたことにより、多くの自治体が様々な取組をしておりますので、それらを研究しながら本市の取組について進めていこうとしているところでございます。</p>
コーディネーター	<p>それでは、本事業に対する外部評価のまとめに入りたいと思います。評価員の皆様のご意見をまとめますと、まず1点目に、プラスチックごみの回収を隔週にする</p>

発 言 者	内 容
	<p>ことと紙ごみの回収を開始することに関しましては、概ね賛成する立場であると見受けられました。</p> <p>また、2点目としてこのような取組について、市の事業だけでは限界があるというご意見も多くいただきました。市民の環境に対する意識の面に働きかけていくことや、一目見るだけで分別の方法がわかるようなものの作成など行っていく必要があるかと思えます。小学生という言葉もキーワードとして挙げられました。学校での学びを家庭に還元する、というサイクルを作ることが重要であるとのことでした。エコドームなど、日進市は環境に配慮した都市であるということをおたっておりまますので、今後もますます取り組んでいただきたいと思います。また、市にできることとして、小売店とどのような形で連携していくのかという部分も議論としてありました。</p> <p>そして、3点目として、そもそもプラスチックごみを減らさなければならないということも話題となりました。回収が隔週になるということで、ごみを出さないための取組、例えば代替品の利用などを進めていく必要があるのではないのでしょうか。また、家庭でごみを出したくないということで、小売店で買った直後に容器包装をはがして捨てるということも問題になっているかと思えます。そういったことに対して市がどのように取り組んでいくのか、一人ひとりの行動を制限するのは難しいと思えますが、より良い方向に導くことは行政の役割だと思えますので、工夫して取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>問題提起と取組にギャップがあるのではないかというご指摘があったかとも思えます。リサイクル率の向上とコストの削減が両立されないような書きぶりになっておりますが、本当にそうでしょうか。その部分の分析は難しいとは思いますが、費用を抑えてリサイクル率も上げるのだという意識を持つことが重要ではないでしょうか。そのような観点でより良い日進市にしていっていただきたいと思います。</p> <p>それでは、市の内部評価では、C「一部改善が必要」となっておりますが、回収の隔週化や新たな回収の開始、それに伴う市民の方へのより一層の啓蒙といったところで、外部評価においても同様に、C「一部改善が必要」としてよろしいでしょうか。</p>
評 価 員	(異議なし)
コーディネーター	<p>繰り返しになりますが、意見をいただいたように、市民のニーズをしっかりと把握することと、市がやっていることをどう周知して、いかに知っていただくかということに努めていただきたいと思います。</p>
	(休憩)
	<p>テーマ型 多様な媒体・方法による広報活動の推進 ～映像番組制作事業からみる課題～ 【秘書広報課】</p>
コーディネーター	<p>それでは、テーマ型 多様な媒体・方法による広報活動の推進～映像番組制作事業からみる課題～ の外部評価を開始します。秘書広報課から説明をお願いします。</p>

発 言 者	内 容
秘書広報課	(説明)
コーディネーター	評議員の方からご意見、ご質問はありますか。
評 価 員	今の説明の中で基本的なことを教えていただきたいのですが、ケーブルテレビが視聴可能である世帯が日進市内にどれくらいあるのかということと、37ページにあります、利用率の根拠になっている動画の登録数が130人という点について、私は動画の登録をしなくても現状ケーブルテレビで見ることができているのですがどうということか教えてください。
秘書広報課	まず、ケーブルテレビが視聴可能な世帯の数につきましては、日進市の全世帯数である約37,000世帯に対して17,000世帯、約46%が加入しているとのことです。次に、登録数130人の根拠でございますが、インターネット上のサービスであるYouTubeの特徴といたしまして、お気に入りのチャンネルを登録すると、更新があったときに通知が届く機能がございます。資料に記載があります130人というのは、市のYouTubeチャンネルを登録している人数のことであり、市が新しい動画をYouTube上でアップロードした際にこの方達には確実に情報が届いていると考えております。インターネットで視聴されている方の人数については、こちらで把握することができませんので、登録者数という指標を使っております。
コーディネーター	確認ですが、ケーブルテレビとYouTubeで流しているものは同じものでしょうか。
秘書広報課	同じものです。
評 価 員	個人的にですが、にっしんテレビを見ることはありますが重要な情報源として活用しているわけではございませんので、廃止してもやむをえないかとは思いますが、廃止をする際には根拠が必要です。現状では3.8%を根拠とするということではよろしいでしょうか。
秘書広報課	そのように考えております。
評 価 員	にっしんテレビの放映時間について、広報にっしんに載っているということをごの会議を行うまで知りませんでした。そのような取組をされているということですので、にっしんテレビに関する周知という点ではしっかりされているように感じました。
評 価 員	私は日進市民ではなくにっしんテレビ自体を見たことがありませんが、一番大事なのは放送されているコンテンツではないかと思えます。現状の内容についてはご指摘できませんが、一般的に考えますと廃止した方がよいのではないかと思います。YouTubeについて、私はなんらかの手続きや製品に関する説明を知りたいときに利用することが多いです。日進市でもそのような活用の方法を検討していただければと思います。どこの窓口で、どのような手続きで、どの書類で、というようなことを動画で見れば、市民には分かりやすいのではないのでしょうか。最近の家電は、ほとんどが紙の説明書ではなくインターネットで見るという形式のものです。イベントに興味がないという市民もいらっしゃると思いますので、このような実践的なものに利用できれば良いのではないかと思います。

発 言 者	内 容
コーディネーター	<p>今の話について、動画を作成する際はどのような基準で、どのような点を重視して内容を決めているのでしょうか。</p>
秘書広報課	<p>ここ2年ほどは、各課より放映したい内容を募集しており、その中から放映するもの決定しております。例えば、にしん夢まつりでは花火を上げているのですが、その花火を上げる方々取材してほしいと依頼があったり、毎年12月にモリコロパークで行われている愛知駅伝の選手取材してほしいと依頼があったりという形になっております。また、いろんなお祭りが市内でありますので、その案内をしたりもしております。年に1回、どのようなものを流したいか調査を行い、番組にすると効果的だと思うものを秘書広報課にてピックアップしております。</p>
コーディネーター	<p>そうしますと、PRという面を重視されているということですね。ただ動画にした方が効果的か、という観点で各課が選んでいるかはわからないということですね。</p>
秘書広報課	<p>最近ですと、特徴的なものとして、イノシシに気をつけましょうというものを作成いたしました。イラスト等では分からないイノシシの動きや大きさというものを、動画を用いたことで効果的に知ってもらうことができたのではないかと思います。</p>
評 価 員	<p>28ページの下段部分について、年代によってインターネットの利用率に差があるということが分かりますが、年配の方であっても使っている人は使っている状況があると思います。また、若い人は年齢を重ねてもインターネットを使い続けると思いますので、将来的には市民全員が活用していくことにはなろうかと思います。しかし、現状では広報誌から情報を得る人が一番多いということで、十分に情報が行き渡っているのではないかと思います。</p> <p>また、34ページ上段の部分で、YouTube登録者数はやはり少ないのではないかと思います。登録しないで見るだけの方もいるかもしれませんし、著名人がやっているようなものと比べて少ないのかもしれないと思いますが、そもそも市がやっているということを市民が知っているのか疑問に思います。市民からの認知度を調査した上で、知ってもらうための努力が必要だと思います。</p> <p>ほかに、39ページ上段にあります10分は長いため3分にするという取組案について、面白い動画であれば10分であっても見るのではないのかと思います。ただ、スマートフォンの視聴を考えた場合、10分の動画ですと通信量が増えるため、そこも問題になるように思います。先ほども意見がありましたが、市民のニーズを把握するように努めて、それを内容に反映することが大切なのではないでしょうか。</p>
評 価 員	<p>38ページの上段について、長久手市では予算、製作本数、長さなどすべての数字が日進市よりも大きくなっております。特に、先ほど話題に上がった動画の長さについて、長久手市では20分ということで、日進市の倍となっております。長久手市でも日進市と同様に長さに関する問題を抱えているのでしょうか。また、他の部分でも問題があるのであれば併せて教えていただきたいです。</p>
秘書広報課	<p>長久手市に確認したところ、動画に関して調査を行っていないため、市民の満足</p>

発 言 者	内 容
	度等は分からないとのことでした。また、問題と感じている部分についてもないとのことでした。
コーディネーター	ケーブルテレビで流しているということですが、視聴率は分かるのでしょうか。
秘書広報課	ケーブルテレビ全体については分かるのではないかと思います、にしんテレビのみということになると分からないのではないかと思います。
評 価 員	市民意識調査について、回答数はどれくらいあるのでしょうか。
秘書広報課	3, 000でございます。
評 価 員	3, 000のうち、有効回答数はどれだけありましたか。
秘書広報課	1, 500でございます。
評 価 員	<p>1, 500という小さい数字の調査ということで分からない部分はありますが、その中で Facebook の 0.6%という数字は話にならないのではないのでしょうか。時代に逆行するようではありますが、Facebook に替わる手段を、と考えるのは発想として当然であると思います。にしんテレビにつきましても、様々な課より放映内容を募るなど努力していらっしゃるの分かりますが、結果が伴っていないのであれば見直すべきだと考えます。</p> <p>ホームページの 14%という数字はとても心配ですので、削減した費用をホームページの充実のために充てていただくべきだと思います。ホームページ内に動画を載せることは何も問題ではないと思いますので、市民の興味が高いものや市が知らせたいものについては、簡単な動画を作成してホームページに載せる方向に切り替えてはどうでしょうか。</p> <p>LINE や Facebook など、流行りのツールを利用するのは良いですが、流す内容が重要ですので、市としての姿勢を明確にして情報発信を行う必要があると思います。Facebook を利用している人で、数多くの情報がある中からわざわざ日進市の情報を見るというのは、よほど興味があるか自分が関係している内容だけだと思いますので、今回 Facebook はやめても良いと思います。新しいことを始める際は、どのような情報発信をするのかよく検討して進めていただきたいと思います。</p>
秘書広報課	ホームページについては、10月25日付でスマートフォン対応になり、より利用しやすいものになっております。
評 価 員	<p>個人的な意見ですが、5、6年前までにしんテレビを頻繁に見ておりました、なぜかと申しますと、内容がボランティアをやらせていたり熟練の技術をもっていたりする市民を紹介するという、人をテーマにした10分の番組であることが多かったためです。この内容が、テレビを通じて市民の皆様知らせるべき本来の目的に合ったものだったかは分かりませんが、よく見ておりました。最近視聴することが減ってしまい、市の情報は広報誌でほとんど得ている状況です。YouTube については、仕事や趣味に関する内容について、ほぼ毎日見ております。</p> <p>先ほど他の委員がおっしゃったように、面白いものであれば10分飽きずに見ますが、市が作成するものというのはそういうわけにはいかないと思います。市が出</p>

発 言 者	内 容
	<p>す情報というのは、過不足なく、端的で、伝わるものである必要があるのではないのでしょうか。そのあたりを踏まえると、現在のにしんテレビの10分というのはどうしても長いのではないかと思います。もし続けられるのであれば、資料にあるとおり時間を短くする必要があると思います。また、私も利用しておりますが、LINE@で行政情報を発信するというのは非常に有効だと思います。</p>
評 価 員	<p>自分自身の話にはなりますが、市のサービスを知りたい時には、インターネットで検索してホームページを利用してあります。また、広報にしんについては、月に1回というサイクルで市がお知らせしたいサービスを、紙媒体で全戸配布するという形ですので、市民の方は見ていらっしゃると思います。自分の知りたい情報についてはホームページ、市全体のことについては広報にしんという使い分けを私はしております。今回このような形で様々な情報媒体があるということを取り上げてありますが、にしんテレビやYouTubeについては存在を知りませんでしたし、どのように見るのかも分かりません。テレビというものは、自分の見たいものを選んで見るものだと考えておまして、今お話があったような内容ですと見たいと思う人は少ないのかもしれない。市民がどのような媒体でどのような情報を得ているか、それを調べ精査していくということはごく当たり前だと思いますので、費用をかけている割に視聴されている方の少ない、にしんテレビのようなものは、ぜひ見直しをしていただきたいと思いました。</p>
評 価 員	<p>まず、41ページに書かれております2点につきまして、にしんテレビという動画でのメディアは無くてもよいのではないかと思います。他方で、YouTubeという新しいメディアは、内容を変えて再活性していくとよいのではないかと思います。</p> <p>また、違う視点として、新しいメディアを増やしていくという発想ではなく、従来のメディアをより良くしていくことが重要だと思います。例えば、市のホームページにYouTubeの動画が貼り付けられていれば視聴回数は増えるでしょうし、QRコードを使ってWeb上の情報にアクセスしやすくするという工夫をするなど、マルチにメディアを増やしていくのではなく、それぞれの媒体の結びつきの中で情報発信の方法を考えていく必要があるのではないのでしょうか。また、お話を聞いていると、広報の手法が前面に出すぎているのではないかと思います。マーケティングの視点では、メディアを消費者とのコミュニケーションツールとして捉えてあります。一方的な情報発信をするのではなく、伝えたいことを伝えたい人に適切なボリュームで伝えるということや、市を好きになってもらえるような情報発信を意識してもらえればと思います。文字による情報と絵による情報、動画による情報それぞれによって、伝えられる情報やそのボリューム、いわゆるリッチネスが違いますので、メディアそれぞれを関連付けながら工夫をしつつ進めていただければと思います。</p> <p>それから、非常に細かい点になりますが、3,000の調査数から1,500の有効回答を得たという市民意識調査の話がありましたが、これは紙での調査になるのでしょうか。</p>

発 言 者	内 容
事 務 局	紙を郵送し、回収することで調査をしております。
評 価 員	回答者の年齢構成は分かるのでしょうか。
事 務 局	分かっております。
評 価 員	例えば、この割合がおかしいということになれば、インターネットで同じ調査を同じ人数に行った場合まったく違う結果が出てくることもございますので、様々な方法で調査を行っていただければと思います。市民が、どんな媒体でどんな情報を得ているのか、新しく判明することもあるのではないかと思います。
秘書広報課	<p>広報につきまして、日進市ではシルバー人材センターに委託することで辛うじて全戸配布ができています。ただ、そういうことが難しい状況である自治体では、Webメディアの活用を進めております。日進市では紙媒体でのメディアが全戸に届いているということは非常に大きいことではないかと思います。</p> <p>また、違う話にはなりますが、企業合同説明会を開催した際に、何から情報を得ているかアンケートをとりまして、その結果では広報誌が一番でした。ですので、日進市にとっては、広報につきんというものは非常に大きな存在であるように感じております。</p>
コーディネーター	<p>本テーマの概要部分で、日進市の情報を求めている人を対象としているとありますが、先ほど他の委員からもあったように、市が伝えたいことと市のことを知りたい人の求める情報にずれがあるように感じました。ですので、対象として、市の情報を求めている人はもちろん、市が情報を伝えたい人がいることも踏まえて、それぞれの媒体がどこで誰をフォローできているのかということ进行分析する必要があるのではないかと感じました。</p> <p>参考にはならないかもしれませんが、先日、福島県郡山市に台風19号が接近した際、浸水や危険物の流出が発生したということがありました。LINE@でその市をフォローしていたところ、普段はイベント情報などが流れてくる程度でしたが、災害時には避難所に関する情報など有益な情報が流れてまいりました。私にとって何が良かったかと申しますと、友人や知人が住んでいる地域がどのような状況であるかということが分かったこととございます。わざわざ市のホームページに情報を取りに行く必要がなく、よく利用するLINEというアプリを使って情報が流れてくるというのは、重要なことなのではないかと思います。</p>
コーディネーター	<p>それでは、本テーマに対する外部評価のまとめに入ります。</p> <p>1点目として、につきんテレビによる動画配信につきましては、廃止してもよい状況ではないかということがありました。ただし、動画という媒体をより有効に活用できるのであれば、内容次第では続けることもよいのではないかというご意見も皆様からありました。</p> <p>2点目として、市が情報発信に用いているメディアは多様にあるので、市の情報を知りたい人が必要としているものは何か、よく使われる媒体は何かということ</p>

発 言 者	内 容
	<p>より深めて、調査していただきたいと思います。新しいメディアを増やすだけでなく、従来のメディアについて現状足りていない部分を分析していく必要があるのではないかと思います。</p> <p>3点目として、広報というものは住民と市役所のコミュニケーションツールになっているということを意識していただき、その上でどのような場合にどのような媒体による情報発信が有効であるのかを考えていただきたいと思います。</p> <p>ほかにも多くのご意見がございましたが、まとめますとこの3点になるかと思います。このことを踏まえまして、多様な媒体・方法による広報活動の推進を進めていただきながら、従来のメディアを充実させること、更には費用対効果の面も併せてご検討いただきたいと思います。以上をもちまして、多様な媒体・方法による広報活動の推進～映像番組制作事業からみる課題～の外部評価を終了したいと思います。</p>
事 務 局	(外部評価実施のお礼、閉会)